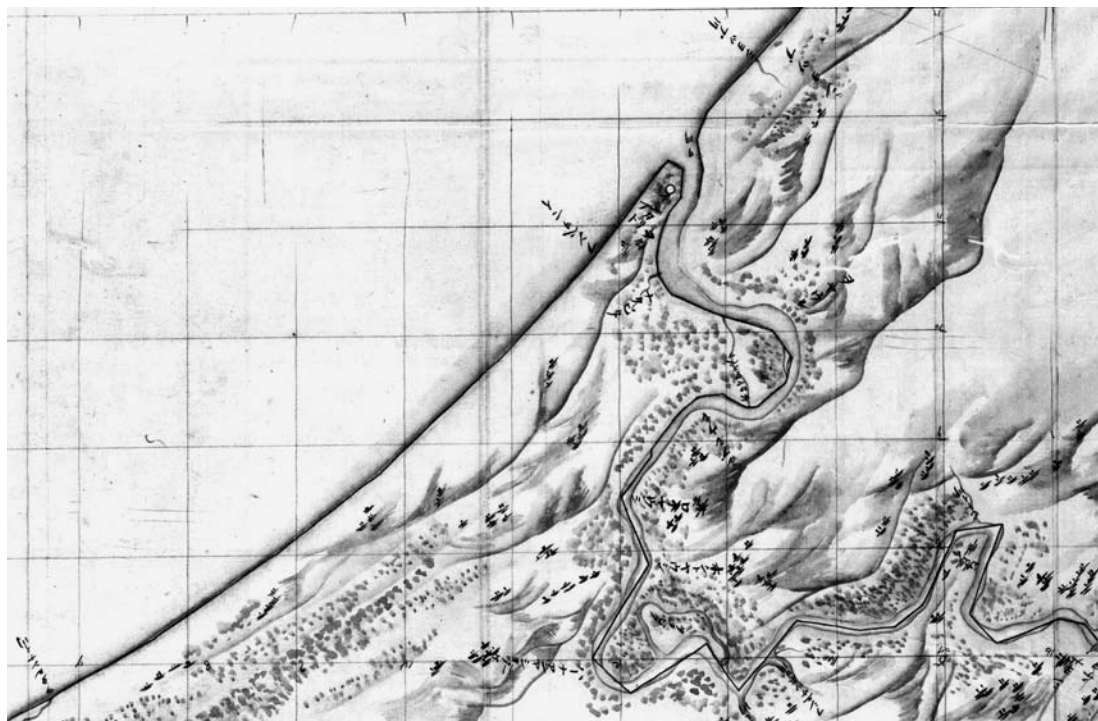


伊能大図の謎



みなさん「伊能忠敬」という名前を聞いたことがあると思います。

江戸時代に全国を測量し、西洋の地図に匹敵する精度の地図を作った人です。この地図は、文政4（1821）年に完成し、最も縮尺の大きい3万6千分1の図は、「伊能大図」と呼ばれています。

しかし、その大部分は、関東大震災などの災害により失われ、石狩の部分も残っていませんでした。ところが、平成13（2001）年にアメリカ議会図書館で、精巧な写本が発見され、研究が可能になりました。

「伊能大図」の石狩川河口部分を拡大したのが【図1】です。現在の石狩川河口周辺の地形【図2】とかなり印象が違いますね。しかし、現在の石狩八幡神社から先を消した【図3】と比較するとどうでしょう。かなり近い感じがします。どうやら伊能大図が測量されたころには、石狩八幡神社付近が河口になっていたようなのです。このことは、これまでに発

見されている江戸時代の絵図にも見られるのですが、きちんとした測量図で確認できたのは初めてです。

石狩川河口の地形は現在も変化し続けています。では、その変化は、いつごろから始まり、どのように変わっていったのか。

およそ200年前に作成されたの「伊能大図」は、その手掛かりを与えてくれるのです。

（工藤義衛）



図1

画像提供／国土地理院



図2



図3

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711 ✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp